

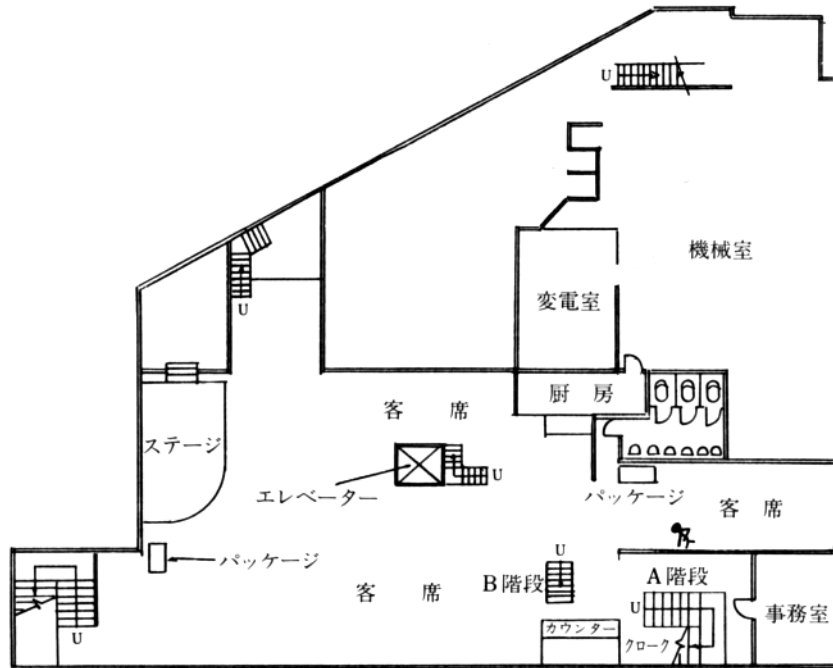
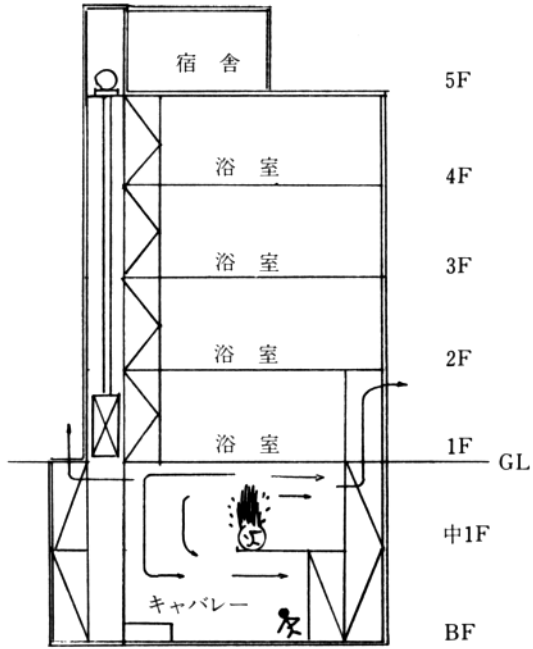
名称 所在	用途 (令別表)	発生日時等	構造・階層 面積	焼損程度 (焼損面積) 延面積	死傷者
キャバレー 「金の扉」	複合用途  (16)イ	昭和39年12月21日	耐火 Ⅲ	全・半・脚・小	死者
		出火1時10分ころ 覚知1時14分 覚知別 報知電話 鎮火9時43分	建 804m <sup>2</sup> 延 3,736m <sup>2</sup>	556m <sup>2</sup> (15%)	1名 傷者 18名 (11)

I 火災概要								
① 概要	この火災は、地階キャバレーから終業後に出火し、延 550 m <sup>2</sup> を焼失し、8時間余りにわたり燃え続け、消防隊が消火に悪戦苦闘した、いわゆる「地下密室」火災であった。							
② 階別 状況	階	床面積 m <sup>2</sup>	焼損床面積 m <sup>2</sup>	用途(売場)	在館者	死者	避難設備等	消防用設備等
	5	396.03		宿 舎			屋内階段 (B1~5F) 1箇所 1F~5F 1箇所 B1~1F (1箇所)	消 内 自 誘
	4	611.39		特殊浴場食堂				
	3	591.59		特 殊 浴 場				
	2	430.08		”			屋外階段 (1F~5F) 1箇所	
	1	804.84		特 殊 浴 場				
	ⒺB1	163.01	143	キャバレー、機械室				
	B1	739.07	413	キャバレー、機械室	28	1		
	合計	3,736.71	556		28	1		
	③ 出火場所	(階、室、部位、可燃物状況、居室・非居室、在・不在) 地下 中1階111号ボックスから出火 中2階の内装は全て可燃材であり、床にはジュータンが敷かれていた。天井、壁、床、座席、シート等の可燃材には防炎吹きつけを施していたが、業者の3・4年は有効という言葉により2年間位処理されていないかった。出火時、地下中1階には人がいなかった。				④ 出火原因	た ば こ 閉店近くに酔客の誰かが椅子の上におとした「たばこ」の吸殻が椅子の布地部に着火したものと推定される。	

⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<div style="text-align: center;"> <p>(出火部位)                      (出火室の拡大)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">地下中1階 111号ボックス</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">座席に接する 内壁</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">天 井</div> </div> </div>	
	<p>客かホステスの喫煙した「たばこ」によりソファーに着火し、この燃えによって接着している壁面材が加熱され着火、これが燃え抜けると、壁の中空部内を燃えあがり、天井に燃え進み燃焼が拡大したものと思われる。(壁はコンクリート壁に1.2cm位の板をすの子張りとし、間柱をたてて板張りとなし、表面を綿入れたレザー張りとしていた。天井は木摺に合板を張り、布張り仕上げされていた。)</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 延焼拡大した主な理由 内装が全く可燃材料であったうえ有効な初期消火が行われなかった。</li> <li>○ 煙の伝播経路 延焼拡大とともに、キャバレー内に充満し、2箇所の階段から濃煙が噴出した。</li> </ul>	
<b>II 火災建物概要</b>		
① 建 築	着工・竣工又は主たる改築等 (新築) 昭和33年 月 日 ( ) 昭和 年 月 日	
管 理 状 況	<b>② 縦 穴 の 状 況</b>	<b>③ 防 火 管 理 状 況</b>
	階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input type="checkbox"/> エレベーター <input type="checkbox"/> パイプシャフト <input type="checkbox"/> エスカレーター <input type="checkbox"/> その他(吹抜け) <input checked="" type="checkbox"/> <hr/> <input type="checkbox"/> キャバレー内、屋内階段2箇所 <input type="checkbox"/> キャバレー中央部が吹き抜けとなっていた。	発災当日は、施設管理者により防火講習および避難誘導消防訓練等が実施される予定になっていた。
	<b>④ 防 火 区 画 等</b>	<b>⑤ 消 防 用 設 備 等</b>
	地上階は池袋温泉が使用し、地階はこの建物の機械室・電気室部分とキャバレーとで使用されていた。この地階の両部分(キャバレーと機械室等)はブロック積みで区画され、防火戸(甲種防火戸)が1箇所設けてあった。	屋内消火栓が店の中央部に1箇所、火災報知設備の差動スポット30個、定温式1個が設置されていた。査察による指示としては、ホースの保守管理を徹底するように指導されている他は特になかった。 (出火時、自動火災報知設備は作動している)

III 火災後の行動						
① 発見状況	<p>○発見者 (ボーイ) ○発見の動機 (白い煙が流れているのを見て) ○発見後の行動 (火事だと叫び知らせる)</p> <hr/> <p>閉店終了後であったため、残っていたマネージャー、ボーイらの従業員 22 名が、地階の 131 号席から 141 号席ボックスで、テレビの深夜放送を見終り雑談中であった。 一人が調理室にいたボーイ M (18 才) がカウンターを出たところ、南西側よりステージ側に白い煙が流れているのを発見し、中 1 階に上ってみると、111 番ボックスと壁の間あたりが巾約 50 cm ほど燃えあがっていたので驚き、“火事だ！水だ！”と叫びながら階下に下りて皆に知らせた。</p>					
② 通報状況	<p>通報 した <input type="checkbox"/> 出火後約( 4 )分 しない <input checked="" type="checkbox"/> (火元キャバレー出入口の対面にあるバー店主から通報されている)</p> <hr/> <p>キャバレー東側出入口 (A 階段) の対面にあるバーの店主 Y は、表の騒ぎで外に出てみると、キャバレーの東側出入口より真黒な煙が噴き出し、従業員が 15~16 名逃げ出してきたので、火事だと知り、119 番へ通報した。なおキャバレーからは支配人が出火を知って女子従業員 2 名に通報するように指示したが、この従業員の通報は数回繰り返したが、回線がふさがっており通報できなかった。</p>					
③ 初期消火状況	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">消火した</td> <td style="width: 25%;">           成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/>            ○消火時期 <input type="checkbox"/>            ○消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/>            ○消火方法 <input type="checkbox"/> </td> <td rowspan="2" style="width: 60%; vertical-align: top;">           (理由又は状況)            火災を発見したボーイ M の叫び声で、K マネージャーは、泡消火器を持ち、ホールに行き引き返して中 1 階に止った。この時すでに火勢は 111 番ボックスより燃えあがって天井に達していた。他の者はいずれも火点は階下と思いホールに行き引き返して B 階段から中 1 階に上っている。このうち 4~5 名の者は消火器を持っていたが、使ったのは M と K の 2 名で 2 本だけである。調理場前のカウンター脇に設けてある屋内消火栓も H ボーイ (21 才) が 117 号ボックス付近まで延ばしたが、水が出ず使用するに至っていない。         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">消火しない</td> <td>           ○消火時期 <input type="checkbox"/>            ○消火困難性 <input type="checkbox"/>            ○消火方法 <input type="checkbox"/>            ○その他 <input type="checkbox"/> </td> </tr> </table>	消火した	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 火災を発見したボーイ M の叫び声で、K マネージャーは、泡消火器を持ち、ホールに行き引き返して中 1 階に止った。この時すでに火勢は 111 番ボックスより燃えあがって天井に達していた。他の者はいずれも火点は階下と思いホールに行き引き返して B 階段から中 1 階に上っている。このうち 4~5 名の者は消火器を持っていたが、使ったのは M と K の 2 名で 2 本だけである。調理場前のカウンター脇に設けてある屋内消火栓も H ボーイ (21 才) が 117 号ボックス付近まで延ばしたが、水が出ず使用するに至っていない。	消火しない	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
消火した	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 火災を発見したボーイ M の叫び声で、K マネージャーは、泡消火器を持ち、ホールに行き引き返して中 1 階に止った。この時すでに火勢は 111 番ボックスより燃えあがって天井に達していた。他の者はいずれも火点は階下と思いホールに行き引き返して B 階段から中 1 階に上っている。このうち 4~5 名の者は消火器を持っていたが、使ったのは M と K の 2 名で 2 本だけである。調理場前のカウンター脇に設けてある屋内消火栓も H ボーイ (21 才) が 117 号ボックス付近まで延ばしたが、水が出ず使用するに至っていない。				
消火しない	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>					
④ 消火活動概要	<p>(消防上の支障・困難性等)          先着隊到着時、両出入口からは、濃煙が猛烈に噴き出しており、内部は濃煙熱気が充満し進入不可能な状態であった。          (内部進入が可能になったのは出火後 6 時間ほど経過してからである。)</p>					

	避 難 方 法	避 難 上 支 障 事 項
⑤ 避 難 状 況	○階段を利用 <input checked="" type="checkbox"/> ( 27 人) ○エレベーター, エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> ( 人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> ( 人) ○窓, 開口部から直接地上へ <input type="checkbox"/> ( 人) ○救 助 <input type="checkbox"/> ( 人) ○その他( ) <input type="checkbox"/> ( 人)	○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
	キャバレー「金の扉」にいた社長以下 26 名の従業員は, 煙と熱気に追われ, 24 名が東側階段 (A 階段) より避難し, 1 名は調理室から機械室を経て避難している。この 1 名と東側階段を利用したうちの 4 名は, 炎にあおられそれぞれ顔面や手などに火傷を負っている。	
⑥ 死 者 の 状 況	健康人 1 名 (泥酔者 名) 要保護者 名 [ 乳幼児 名 高齢者 名 身体不 自由者 名 病 人 名 ]	避難上支障となった事項 ○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input checked="" type="checkbox"/>
	焼死したボーイ A (22 才) は, 11 時 30 分閉店後, 132 号ボックスに就寝し, 前夜徹夜したため熟睡して出火に気づかず, 就寝のまま窒息焼死するにいたった。このボックスの回りには, 多数の者が, テレビを見ていたのだが, 燃焼が早かったためか, 起されずとり残されてしまったものである。	
<b>IV 問題点・教訓等</b>		
過去にソファをこがした「小火」が数回あったというから, いつでもほんの「小火」程度ですむと考えるのではなく, 何時でも出火時の初動に応じられるような防火管理と教育訓練が必要であった。		



地階

